

平成29年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 共同研究推進 <input type="checkbox"/> 若手教員研究支援 <input type="checkbox"/> 個人研究支援 <input type="checkbox"/> 研究推進重点設備 <input type="checkbox"/> 研究推進設備修繕
プロジェクトの名称	へき地における活動を介した学生の教職への意欲向上および児童生徒の学習意欲向上に関する研究 —浜頓別町をフィールドとして—
報告者氏名・所属・職名	海老名 尚・旭川校・教授
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	◎海老名 尚・旭川校・教授 角 一典・旭川校・教授 久保 良宏・旭川校・教授 芳賀 均・旭川校・講師 高橋 将之・浜頓別町教育委員会・主幹
研究内容及び成果の概要	
<p>本研究は、浜頓別町をフィールドとして、研究を基盤とした地域連携のあり方について、その可能性を検討することを第一義とした。浜頓別町とは、長年、7月に実施される通学合宿事業への学生派遣のみならず、近年、夏季および冬季の休暇中の学習サポート事業、北オホーツク100kmマラソンの運営ボランティアなどにも範囲が拡大し、また、芳賀（音楽分野）が実施している道内各所での「おとぼけキャラバン」も浜頓別町内の学校等での実施が定着している。さらに、本年度は月1回の土曜学習事業への学生派遣もはじまり、多くの学生が浜頓別を訪れるようになってきている。そこで、本年度は、浜頓別町の事業へのボランティア参加学生への聞き取りを中心に、ボランティア参加と教員への意欲向上との関係を解明することなどを目標として研究をスタートさせた。冬季休暇中の学習サポート事業は悪天候のため中止となったが、その他の事業については、通学合宿1名、夏季休暇中の学習サポート2名、土曜学習塾2名、7月のおとぼけキャラバンに3名、3月の「浜頓別町における出前授業（音楽ゲームと電子機器を使った遊び）の実践」に4名の学生が参加した。</p> <p>これらの学生へのヒアリングを実施したことで、仮説的に明らかになってきたのは、教員への意欲が相対的に高いと思われる学生が、ボランティアへの参加を通してより意欲を高めていくというスパイラルの存在である。そもそも、教育大の学生は教員への意欲の高い者が多数であるが、その中でも相対的に意欲の高い者がこうした事業に興味を示しやすく、参加を通してより高い意欲を獲得するわけである。まだサンプルが少数であり、この知見は仮説の域を出ない。今後、浜頓別以外の事業への参加者へと対象を広げるなど、サンプル数を増やすことによってこの仮説をより強固なものとするだけでなく、教員への意志が相対的に弱い学生に対する効果等と比較することを通して、ボランティア参加がもたらす学生への効果のメカニズムをより詳細に解明することが望まれる。</p> <p>なお、児童生徒の学習意欲の向上については、研究の実施には至らなかった。</p>	
成果の公表の状況	
【著書】なし 【学術論文】なし	
教育現場で活用可能な分野・教材等	
芳賀が実施している「おとぼけキャラバン」については、条件が合えば活用可能。	
配布又はダウンロード可能な資料	・角一典, 2016, 「南宗谷における地域連携3年間の小括 地域連携の重要性をあらためて考える」『旭川実践教育研究』20:31-36.
問い合わせ先	代表者：角 一典 電 話：0166-59-1289 FAX ：0166-59-1289 mail ：kado.kazunori@a.hokkyodai.ac.jp